



教育学部 学校教育教員養成課程  
教育・発達基礎コース 3回生  
奈良県立奈良高校 出身  
中村 恵 (ならむら めぐみ)

〈実習にあたっての抱負〉  
「子どもたちが言っていること、それぞれ思っていることなどを  
感じ取れるようになりたい。」



教育学部 学校教育教員養成課程  
教育・発達基礎コース 3回生  
奈良県立郡山高校 出身  
福田 夏希 (ふくだ なつき)

〈実習にあたっての抱負〉  
「現場の先生から、言葉かけの  
方法やうながし方、子どもとの  
つながり方などを学びたい。」

## 教育実習 初日



〈実習初日〉初めての顔合わせ。あいさつもどこかぎこちない。



〈実習初日〉遊戯室で開催された誕生日会の後、子どもたちに実習生が紹介された。



〈実習初日〉「好きな遊び」の時間。少しでも多く子どもたちに声をかける。

教育実習生は、年長組、年中組、年少組と、それぞれの担当にわかれ、約1ヶ月の間、実習校で保育実習を行う。  
教育実習は、これまでに学生たちが大学で学んできた理論などを実践すると同時に、現場で日々、子どもたちの保育を行っている教師らから多くのことを学びとる貴重な機会でもある。

緊張と不安に押しつぶされそうになりながらも、なによりも「子どもが好き」という純粋な思いを支えに、実習生たちは教育実習をスタートさせる。  
初日から、積極的に子どもたちの輪に入ろうと声をかけている姿が印象的であった。



「1人でも多く子どもたちと話そうと思っていました。指導教諭の保育を拝見していると、叱ることが少ない、と感じました。違うところにいる子どもに対して、どういう風に声をかければいいのかかわからず、困惑してしまいました。」

「顔と名前が一致するようになり、色々な子どもたちと関わりたかったのですが、特定の子どもばかり遊んでしまいました。グループ名を決める際に、提案したグループ名が受け入れられず、すねてしまう子がいました。そんな時、どういふ風に声をかければいいのかわかりませんでした。」

## 初日を終えて



【特集 教育実習の日々：附属幼稚園編】

# キーワードは『ねらい』 子どもを思う情熱を胸に、 教職の原点がここにあった。

教員免許状を取得する者が、必ず通らなくてはならない「教育実習」。本学附属幼稚園でも毎年教育実習がおこなわれる。実習生たちは、子どもたちを前に、この現場実習で何を思い、何を考え、どのように学ぶのか。教育実習の現場取材した。  
(文・写真 企画・広報室)

## 教育実習生の一日

16:30	16:00	14:40	14:00	13:45	11:40	10:40	9:20	8:40	8:00
<b>教材研究・保育指導案作成など</b> 子ども一人ひとりをイメージし、毎日遅くまで指導案作成や準備に時間を費やす。	<b>園内清掃</b> 清掃をしながらも、遊具などを観察することで子どもたちがどのような遊びをしているのかを知ることができる。	<b>反省会〈初日オリエンテーション〉</b> 意見交換で客観的な意見を聞くことができる貴重な時間。現場に出れば一人その日を振り返ることも多くなる。	<b>園児送り出し</b> 迎えの保護者らに1日の保育内容を説明するのも重要な仕事の一つ。保育に家庭との連携は欠かせない。	<b>絵本読み聞かせ</b> 実習期間中は、指導教諭の保育を観察できる貴重な機会。実習生たちは、現場での保育方法をしっかりと学びとっていた。	<b>昼食・「好きな遊び」の時間</b> 子どもたちとの会話もだんだんと増え始めた。	<b>保育室にて保育</b> 工夫を凝らした教材を用意してみるが、子どもたちへ伝え、そして進行することはイメージしている以上に難しく、しっかりとした準備が必要となる。	<b>おはよう体操</b> 毎朝園庭で行われる『おはよう体操』。実習生たちも園児たちを真似しながら参加した。	<b>園児登園・「好きな遊び」の時間</b> 子どもたちの元気な声が園庭いっぱいに広がる。全員の子どもとあいさつをして、その日の子どもの状態を観察する。	<b>登園準備</b> 保育内容を整理したり、遊具や保育室を確認したりなど、子どもたちが登園するまでが気が抜けない。

## 教育実習 1～2週

実習生たちは、絵本の読み聞かせや実習生が選んだ教材を使って保育の一部を行う「部分保育」を任される。

しかし、実際に一人で約30人の子どもたちを見るのは、想像していた以上に困難だったようだ。

〈中村〉「絵本読みは十分に練習して臨んだつもりでしたが、頭が真っ白になりました。園庭に移動して保育を進める際など、どこに集まるのかまで指示していかなくて、子どもたちを混乱させてしまいました。保育をどう進めるのかイメージして保育指導案を作成していましたが、子どもたちがどう動くかまでイメージできていませんでした。それに30人全体を見なければならぬのに、園庭で走りまわってケガをしている子がいっても気が付かないなど、視野の狭さも痛感させられました。それでも、子どもたちが予想していた以上の反応をみせてくれることもあってうれしかったです。」

実習生たちが保育をしてみて感じたのは、設定保育の準備や練習をする際に、子どもたち一人ひとりの動きをまだまだイメージしきれいなかったことだった。それをイメージするために、日頃から子どもたちの観察が重要になることを再認識させられたようだった。

### 保育指導案

実習生たちが、保育を担当するときを作成する保育指導案。この中に、その日の保育の「ねらい」や日常の子どもの様子（姿）、そして教材の進和方法などが、細かく書かれている。

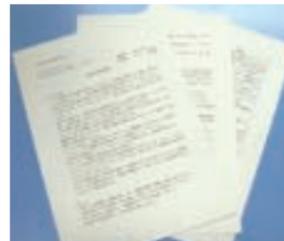
はじめは多くの実習生が作成に苦労したと明かす。しかし実習を終えると、保育の意味、その日の「ねらい」を明確にするために、保育指導案はとても大事だったと全員が口をそろえる。



園庭での保育では、実習生の大きな声が響いていた。



〈部分保育〉時に小さな声の方が子どもの関心をひくことを学び、実習生たちは実践していた。



〈保育指導案〉その日の保育内容が細かく書かれている。

### 反省会



実習生たちは、毎日の終わりに指導教諭を交え「反省会」を行う。

この反省会では、実習生たちが、その日にどのような「ねらい」をもって取り組んでいたか、そしてどんな発見をしたかなどを振り返り、疑問点などについて指導教諭からアドバイスをもらう。

この日々の振り返りと反省が、明日以降の取り組みに応じて表情を変え、より有意義な実習となっていく。

### 保育には「ねらい」を持って欲しい



奈良教育大学附属幼稚園 指導教諭 長谷川かおり

保育をする上では、子どもに何を体験させたいのか、どういった部分を伸ばしてほしいのか、どう感じてほしいのかなど、常に「ねらい」を持つことが大事です。全体のねらいと個人のねらいをしっかり持っていないと動けません。

そのためには、子どもたちに寄り添って、日々成長している子どもたちの姿を確にとらえることが大切です。「ねらい」があることで、伝えなければならないこともしっかり伝えられますし、想定外のことがあっても対応できます。子どもは言葉以上に表情を見ているので、その時の状況に応じて表情を変えることも必要です。

今後は、自分の個性も大事にしながら、保育者にとって必要とされる資質を磨いてほしいと思います。

### 自分の良さを生かした保育を



奈良教育大学附属幼稚園 副園長 上野由利子

実習中期には、実習生たちも、絵本の読み聞かせやクラス全体の活動など、一部分の保育はできるようになってきます。

しかし、1日保育となるとそれぞれの活動をつなげなくてはならないので、どうしても子どもの気持ちが途切れてしまって苦労します。また、子ども一人ひとりの思いを大切にすること、先生の思いを子どもに伝えることのバランスに難しさを感じたと思います。しかし、日々振り返り反省していく中で、自分の良さを生かした保育の仕方、表現の仕方を身につけてほしいと思います。

## 教育実習 3～4週

「よいよ、子どもたちの保育を全て任される『1日保育』を行う。部分保育とは違い、1日という大きなスパンの中で、様々な保育をつなげていかなければならない。実習期間中、2度の機会を与えられる『1日保育』を振り返る。」

〈中村〉「どのようにつなげるか保育の間をつなげていけばいいのかわかりませんでした。それに、焦りが出てしまって、特定の子にしか声かけができませんでした。それでも笑顔は忘れてはダメだと、どんな時も笑顔でいようと決めていました。時間を気にするあまり、子どもたちを急がせてしまいましたが、子どもたちが自らほうきを取り出して掃除を始めた時、「あと何分だよ」と言ってくれたりして、気持ちを理解してくれたのには感動しました。」

〈福田〉「初めて1日保育を担当した時は、不安だらけでした。保育のつながりもそうですが、自分の『ねらい』が伝わるのかなという思いが大きかったです。しかし、やること、伝えることを忘れていても、焦らず後で伝えれ



福田さんは手話も教材に取り入れた

ばいい。後でどう挽回できるかの方が大事。との指導教諭のアドバイスに、2度目の1日保育では、たとえ伝え忘れていても落ち着いて伝えればよいと余裕を持っていました。あまり考え込まず、ポイントを押さえて進めていけばいいことがわかりました。」

実習生たちは、また大学へ戻りそれぞれが実習を通して経験し、学んだことを振り返りながらさらに卒業に向け研究をすすめることになる。教育実習は、そんな教職の夢を追う学生たちの原点になることだろう。

## 実習を終えて

反省会をすることがすごく良かったです。そこでアドバイスされたことをもとに、毎日「考え」や「目標」などの「ねらい」を持って実習に臨みました。声のかけ方が、最初は自分から子どもに…という方向でしたが、子どもから子どもにつながりができるよう、「〇〇くんに聞いてみたら？」という具合に声をかけることができるようになりました。だんだんと話を聞いてくれるようになったことで、信頼関係が築けたのかと思います。大学に戻ってからは、絵本が好きなので、絵本と言葉の発達の間接関係を研究していきたいです。(福田)



実習を始めた当初は、子どもたちをただ5歳児ということだけで想定せず、「こんな風に進めれば大丈夫」などと考えていました。しかし、それではうまくいかず、同じ5歳児でも一人ひとり違う性格で、対応についても子どもによってやり方が違うことに気がきました。「この子はこういう子」とわかってくるにつれて、保育指導案を作成する時に、一人ひとりの顔を浮かべながら考えることができるようになりました。また、それぞれの子どもに応じた保育の「ねらい」を持って接していかなければならないなと実感しました。(中村)



中村さん2回目の1日保育は、「研究保育」として実習生や教員が見学する中に行われた。



〈教育実習最終日〉子どもたちと別れを惜しむ。